

光り、輝く、チーム南陽小 ～考えよう、語り合おう～

人権週間中の取組

11月27日から12月8日までを「南陽小学校人権週間」に定めて、通常の全ての教育活動においてベースとなっている人権に関わる教育を、より意識して進めてきました。具体的には、挨拶や、さんづけ、スリッパ並べ、学校のルール順守、相手を尊重する言葉をつかうなどを、共通指導しました。

また、最終日の8日には「人権集会」を開催し、全校児童が揃った中で人権の学習を行いました。集会委員会が会全体を上手に進行してくれました。集会では、「はじめの言葉」を5年1組の上●●●●●さんが担当し、集会のねらいをしっかりと述べてくれました。その後の「なかよしじゃんけん」では、二人組をつかってあいこなら気持ちが揃ったのでお礼を言って座るといった活動をしました。普段は勝者を決めるためにつかうじゃんけんですが、相手が何をだすかを予想してじゃんけんし、同じ気持ちだったことの心地よさを味わう体験は、実は貴重な人権学習です。家庭や地域でも、「あいこじゃんけん」や、「勝った相手を気持ちよくさせたという良さがある『負けじゃんけん』」を取り入れてみてはいかがでしょうか。

私が話す時間もあったので、下のスライドを使いながら話を進めました。

<p>今日のお話</p> <p>まともり! おぼえて ほしい ことば かんが かんが 言葉と 考え方</p>	<p>校長先生の 子どものころは……。</p>
<p>いろ ひと はだの色は、人によって ちがう</p> 	<p>せかい め お 世界に 目を 向けると、さらに ちがいが ある</p> 
<p>人間は、一人一人 ちがっている ↓ ちがっているのが あたりまえ この一本を は ちが っているのか?</p>	<p>人間は、一人一人 ちがっている ↓ ちがっているのが あたりまえ</p> 
<p>人は それぞれ ちがうことは わかって……。</p> 	

「私の子どもの頃は。」と言いながら、以前は「はだ色」と呼ばれていたクレヨンを出しました。(今はうすだいたい色となっています。皆さんの小学生の頃はどうかでしょうか。)当時は、ある一色を「はだ色」と決めてしまう社会であり、人権意識だったのです。

もちろん今の社会ではこの考え方はおかしい、通用しません。ちがっているのが当たり前で、ちがっていることを受け入れる社会認識として『ダイバーシティ』という言葉伝えました。

とは言え現実社会では、同じ・似ている者同士がグループを作り、そうではない者を締め出したり、多数者(マジョリティ)が優で、少数者(マイノリティ)を劣と捉えたりすることが、まだまだある。このような社会を変えていかねばならない。実際に、動き出した会社があるとして、クレヨラ社「カラース・オブ・ザ・ワールド(24色のはだ色が入ったクレヨン)」を、左のスライドとともに実物を見せました。

違っていることの当たり前を、「その人のよさ」として受け入れて、違っている者同士が楽しく、仲良く、活躍できる状態のことを『インクルージョン』という伝えました。

ちがいを「よさ」として 受け入れる!

インクルージョン



- みんなが たのしく
- みんなが なかよく
- みんなが かつやく

最後に、右のスライドを示して、今日話した『ダイバーシティ』と『インクルージョン』を、私たちの南陽小学校に広げていこうと呼びかけて、話を終わりました。

南陽小学校に、世の中に、
ダイバーシティ & インクルージョン を
ひろげよう!!



1回のお話で、子どもたちが十分理解するのは難しいと思います。

しかし、人権というある種その人そのものである概念は、私たち大人が繰り返し子どもたちに説明し、一緒に考える必要があると考えます。

終わりの言葉は、6年2組の吉●●●さんと松●●●●さんが、集会に参加しての思いやこれからの生活で心がけることなどをしっかりと述べてくれて、よい締めくくりができました。

しなきゃなんてない	LIFULL	ポプラ社
みんなが えがおに なれますように	うい	学研
Red(レッド) あかくてあおいクレヨンのはなし	マイケル・M ホール	子どもの未来社
あのとき すきになったよ	薫 くみこ	教育画劇
どんなかんじかなあ	中山 千夏	自由国民社